

会には、書面決議・委任状を含め118名が参加。継承する会の存在と活動のいっそう大切な役割を確認し合い、予定された議案をすべて原案どおり採択しました。



総会は、会員が進んで参加・協力できる会をめざそうという岩佐幹三代表理事のあいさつに始まりました。事業報告の一つの目玉は継承センター設立委員会で検討を重ねて来た「継承センター設立構想」の発表。「被爆者の死と生、たたかい」を人類の歴史に刻むアーカイブとしてのセンターは、記憶遺産館および継承・交流活動の2つのスペースをもつ現実の場としての「継承センター」と、場所にとらわれない「オンラインアーカイブ」から成り立ちます。その構想と実現への道筋について、濱谷、岡山

両委員がスライドを用いビジュアルに紹介しました。

つづいて木戸季市さんがNPT再検討会議での被団協代表団の活動を報告。最終文書は採択されなかったものの、国連での原爆展や被爆者の証言・メッセージはよく受け止められ、若い人たちの活躍など継承への新しい芽も見え始めたと言いました。



事業計画をめぐっては、設立構想の実現に向けた資金集めの重要性をはじめ、こんな情勢だからこそ被爆者の証言が求められている、日本人は今までやってきたことに向き合い考える必要がある、など戦争・原爆体験世代が発言。さらに受け継ぐ世代からも、70年を生きて来た被爆者たちのいま言い遺したいことを記録して残していく調査活動の提言や、スマホやフェイスブックを活用して若い人たちへの発信力を強める必要についてなど、積極的な発言が続ききました。

閉会のあいさつは中澤正夫副代表理事。お金も必要だがスピードも必要。今日の参加者はスマホが使えるか使えないかで2つの層に分かれるが、安保法制には若い人たちも危機感をもって集まってきている。これは原発や広島・長崎、私たちの活動にもものすごくつながっている。若者とつながりながら、推進チームをつくっていこうと締めくくりました。

総会終了後、第1回理事会を開催し定款13条2項に基づき、代表理事に岩佐幹三理事、副代表理事に安齋育郎理事、中澤正夫理事をそれぞれ互選しました。また、この度理事を退任された池田眞規さんには、この会の発起人としての功労に感謝しつつ、引き続き助言・指導をお願いすることとし、顧問に就任していただくことを承認しました。

なお、選任された理事、監事は、次の通りです。

理事：有原誠治、(映画監督)、安斎育郎(立命館大学名誉教授)、伊藤和久(事務局)、岩佐幹三(日本被団協代表委員)、大岩孝平(東友会会長、新任)、大久保賢一(弁護士)岡山史興(会のWebサイト管理担当、新任)、間間 元(医師)、笹川博子(日本生協連執行役員、新任)、内藤雅義(弁護士)、直野章子(九州大学准教授)、中川重徳(弁護士、新任)、中澤正夫(医師)、橋本左内(牧師)、舟橋喜恵(広島大学名誉教授)、安田和也(第五福竜丸平和協会事務局長)、山根和代(立命館大学准教授、「平和のための博物館国際ネットワーク」理事)、吉田一人(杉並区原爆被爆者の会幹事)

監事：木村誠(司法書士)、田部知江子(弁護士)。

* 岩佐代表理事の挨拶は巻末に掲載

II. NPT再検討会議報告(木戸)

日本被団協事務局次長 木戸 季市

日本被団協の代表団の一員としてNY行動に参加した報告は、その概略をすでに総会席上で行いました。そのほか「人権と部落問題」8月号にも載せています。重複を避け、二、三、気づいたことを述べます。

合意文書は採択されませんでした。残念です。またNPTそのものの存在を疑問視する報道もありましたが、しょげることはありません。NHKで紹介されたオーストリアのクメント大使の奮闘からも明らかのように、世界の流れは核兵器廃絶に向かっています。この流れを逆戻りさせることはもはやできません。核保有国は追い詰められています。必死に抵抗し、危険をもたらす可能性を否定することもできません。危険な行動に走らせないのは、核保有国の国民の運動であり、世界の世論だと思えます。この点で、4月24、25日の国際平和会議、26日のNY行動に集まった人が少なかったことが気になりました。世界的な市民運動の強化が迫られていると感じました。そのために、私たちの証言活動が一層大切であると痛感させられました。

原爆開発に関連した地域を公園にする計画が進められています。その理事長との懇談会が設定されました。計画に懸念を示す田上長崎市長の要請にこたえてケリー理事長が設けたものです。松井広島市長、田上長崎市長、被爆者から藤森被団協事務局次長と私、長崎から朝長前長崎原爆病院院長などが出席しました。田上市長は、公園が原爆の開発を顕彰するものになるのではないかと懸念を表明しました。ケリー理事長は、すべてを漏らさず表す公園にしたいと説明しましたが、「原爆の開発は科学の勝利である」とも述べました。藤森さんが「科学の勝利ではない」と発言、また朝長さんは「公園という表現は日本人には違和感がある」など、意見を述べました。問題は公園が具体化されるなかでどのようなものになるかということでしょう。注視していかなければなりません。

原爆が人類と共存できない兵器であることを考えるものにしなければならないと感じました。

大学、教会、地域、原爆展などで証言してきました。その一つにナイチンゲール・バンフォード高校があります。200名の生徒が聞いてくれました。アニー・ジャコブさんとレベッカ・リンさんが手紙をくれました。アニーさんは翌日国連に会いに来てくれました。サーロ節子さんを紹介もしました。

手紙のほんの一部ですが、アニーさんは「・話をしてくれたことに心の底から感謝したい、これまでのどんな話より私を動かした。・これまで歴史を学び、原爆投下の背景、政治的意味、投下直後の破壊や悲惨な写真を見て、原爆について十分理解していたと思っていたが、そうではなかった。苦難の真の気持ちは本では理解できないことを知った。・来年は大学に行くが、平和について、人生について、人間愛について情熱を傾けたいと感じた。・あなたはアメリカとアメリカ人を嫌っていないと言った。あなたの言葉の全てから深い愛を感じた。私たちは違った世代、違った国にいるが、同じ人間であり、それは本当に美しいことである。・私の人生を変えてくれたと感じている、本当にありがとう」と、書いてくれました。

若い人々が私たちの訴えを受け継いでくれていると、嬉しくてなりません。

アニーさんはメールアドレスと住所を知らせてくれています。継承する会の若い人とアニーさんが語り合ってくれたら素晴らしいと思いますが、いかがでしょうか。

Ⅲ. 被団協総会で「継承センター設立構想」をスライドムービーで紹介

6月9、10の両日、日本被団協の第60回定期総会が東京グランドホテルで開催されました。継承する会はその第1日目、全国から参加された被爆者のみなさんに「ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産の継承センター設立構想」をスライドムービーで紹介し、今後の各県・地域における被爆者運動資料等の収集への協力を呼びかけました。

5月の継承する会定期総会で発表された設立構想にナレーションの音声を加えたムービーは約20分。参加者や報道関係者からは、「会のめざすことの全体像が見えるようになった。応援したい」「この構想は今後、どのように具体化していくのですか」など、反響が寄せられました。

このスライドムービーは一部改訂のうえ、7月半ばころまでに、日本被団協および継承する会のホームページでも見られるようになる予定です。会では被団協および各県組織と協議しながら各県の被爆者運動資料の現状確認・収集にも生かしていく予定です。会員のみなさまにも、会の構想を広く知らせ協力を呼びかけていくために、ぜひご活用いただきたいと願っています。

IV. 部会、作業グループの取り組みから

1. 継承・交流部会

● 日本被団協と協力し、被爆70年の調査を計画中

広島・長崎の原爆から70年。この歳月は被爆者のみなさんにとってどれほどの重みをもっているのでしょうか。原爆を体験した一人一人が被爆後の70年をどのように生き抜き、いまどのような思いを伝え残そうとしておられるのでしょうか。

この節目の年に、一人でも多くの被爆者のみなさんに、あらためて生きてきた70年をふり返り、その思いのたけを残していただこうと、継承する会では日本被団協と協力して、「被爆70年を生きて『被爆者として言い残したいこと』調査」を計画しています。

実施は8月からの予定。調査の企画、集計・分析には、若手の研究者が軸となり、若い人たちにも加わっていただく予定です。

2. 資料収集部会

1) ①被爆者運動関係の資料を整理している愛宕事務所では、この夏休みにも昭和女子大の松田忍先生と学生さんたちの協力で作業を継続します。秋からは、各都道府県における出版物や運動資料の現状を調査し、各県の会とも相談しながら収集・整理の方針を立てていきたいと考えています。

2) 一方、継承する会が悉皆で（あまねく）収集する予定の4つの資料群の他の柱（②体験記・証言、③調査研究、④芸術作品）をはじめとする書籍・冊子などの出版物については、日本被団協所蔵分の目録どりが始まっています。7月からはコープみらいのコーププラザ浦和（南浦和）の部屋を資料の保管・整理作業のために借用できることとなり、書籍類の整理作業は主としてここですすめることとなります。

3) 専門分野別の資料の収集については、医療・相談事業関係につづき、平和教育分野の体制づくり・資料収集が始まっています。

V. 各地の取り組み・関連企画から

1. 第2回「若手による原爆体験研究発表会」報告

5月31日（土）午後、慶應大学三田キャンパスで、「若手による原爆体験研究発表会」が開かれました。昨年11月につづいて有末・浜・濱谷・栗原の4氏呼びかけによる2回目の研究会には、56人が参加、うち半数近くが被爆者で、この問題に対する関心の高さがうかがわれました。

今回の報告者は根本雅也さん（一橋大学大学院社会学研究科・特別研究員）。3年前に書いた博士論文「原子爆弾による惨禍と苦しみの意味をめぐる制度と体験者—広島市行政・日本政府・社会運動・被爆者—」を改めてひもとき、第1部：広島市を舞台に、市行政や社会運動が原爆をどのように意味づけてきたのか（原爆は「平和」をもたらした／ヒューマニズムとしての原水爆禁止／「原体験」の強調／被爆体験の継承、など）を概括し、第2部：被爆者はそれにどのように関わってきたのか、被爆者にとっての語ることの意味について、語り部（証言）活動をしてきた3人の被爆者の事例をとおして紹介しました。

参加者からは活発に意見や質問が出されました。語り部活動の可能性や聞き手の役割の重要性に共感が寄せられる一方、広島市行政や社会運動（原水禁運動）に焦点をあてたため、国政や被爆者（日本被団協）のたたかい、その役割が見えない、1部と2部のつながりが分からない、など、今後の研究への課題や期待の声も多く出されました。

2. ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐネットワーク

(1) 「ヒロシマ・ナガサキから未来へ1 坂下さんの証言」を you tube で公開しました

4月12日に主婦会館プラザエフで開催したデジタルストーリーテリング研修会で、「ヒロシマ・ナガサキから未来へ1 坂下さんの証言」を制作しました。5分程度の作品で、以下のURLでご覧いただけます。

URL : <https://youtu.be/2m9Bo9g9WZg>

今後も被爆の証言や受け継ぎ手の思いを発信していきたいと考えています。この取り組みと一緒に取り組んでくださる方、この作品の外国語字幕制作にご協力いただける方を募集しています。

【連絡先】

ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐネットワーク事務局（継承する会事務局 島村まで）
Email: shimamura_kiokuisan@yahoo.co.jp TEL/FAX 03-5216-7757

(2) 「お茶会～NPT再検討会議参加者を囲んで」を開催しました



6月13日（土）13:30～15:30、四ツ谷の主婦会館プラザエフ5F会議室で「お茶会～NPT再検討会議参加者を囲んで」を開催しました。19歳から80歳まで10名が参加しました。

被爆証言をはじめて聞いたアメリカをはじめ外国の人々（小中高生を含む）の、「原爆のもた

らしたものが何か知らなかった。ごめんなさい。話をしてくださってありがとう」という反応や、国連の各国代表部に要請に行ったときに、最初は15分程度の約束が1時間以上も熱心に話を聞いてくれた。核兵器の保有国の代表がその枠の中で人間として精一杯の共



感を表してくれたと思う。現地の集会で日本から参加した高校生をはじめ若い人たちの発言を聞いて「これからは若い人たちが主役だ、もっとこういう若者に出てきてほしいと思った」など感想やエピソードが紹介されました。

ローレンツ・ルイス君のエピソード～ルイス君は9歳の小学生。被爆者の証言を聞いて「もっと多くの被爆者の話を聞いて自分がそれを伝えたい」とあちこちで被爆者の証言を取材。自分の通

う小学校で発表することになったが、1時間の予定が5分で校長先生からストップがかかった～を聞いた学生さんは「私自身もそれは実感していることで、そこが課題だと思う」。受け継ぎ手としての「私が話していいんだろうか…」という率直な悩みや、「皆さんのディスカッションがとても参考になりました。今活動されている方に期待したいと思います。私もNPTに参加して、改めてもっとできる限りのことを積極的にかかわっていきたい」という被爆者の決意など、話が弾み、あっという間に2時間が過ぎてしまいました。



今回のお茶会はNPT再検討会議の現地行動に参加した人の報告が中心でしたが、被爆証言集を出した千葉の皆さんや、日本被団協の代表が現地で配った「被爆者からのメッセージ」に抜粋掲載された証言の聞き取りをした高校生など、国内での取り組みについても話せる人たちの参加があれば、もって充実したディスカッションになったと感じました。12月に予定している「語り受け継ぐつどい」で活かしていきたいと思います。

被爆者の平均年齢は80歳、次回NPT再検討会議の際は85歳。被爆者の証言は貴重だが段々証言をすること、聴くことが難しくなっています。5年先の次のNPT再検討会議を見据えて具体的に準備していく必要性を改めて考えました。

(3) 「被爆の証言を聞くつどい」のお知らせ

- ◆ 日 時 : 7月4日(土) 午後1時半～3時50分
- ◆ 場 所 : 主婦会館プラザエフ5F会議室
(東京都千代田区六番町15 JR四ツ谷駅下車麴町口出てすぐ)
- ◆ 連絡先: Eメール: shimamura_kiokuisan@yahoo.co.jp FAX: 03-5216-7757

広島・長崎の被爆から間もなく70年を迎えます。この長い間、被爆者のみなさんほどのように生き、何を願って生きてきたのでしょうか。被爆70年への「聞き取り」は、被爆者のみなさんの思いのたけを語っていただき、聞いた人がそれを受けとめ、次の世代につないでいこうという取り組みです。語り手と聞き手の交流の中で、被爆者のみなさんの生きてきた証を受けとめていきましょう。「つどい」では少人数（4～8名）で語り手の証言にじっくりと耳を傾け、そのあと語り手の方も加わってグループディスカッションを行います。

(4)「第7回打ち合わせ」のお知らせ

- ◆ 日 時 : 7月18日(土) 13:30～
- ◆ 場 所 : 主婦会館プラザエフ5F会議室
- ◆ 連絡先 : E-mail: shimamura_kiokuisan@yahoo.co.jp

各地の取り組みの状況を共有し、今後の取り組みについて話し合う第7回打ち合わせを以下の日程で開催します。グループ、個人、どなたでも参加いただけます。多くのみなさまのご参加をお待ちしております。参加される方には事前に資料等お送りいたしますので、継承する会事務局の島村までメール、またはFAXにてご連絡ください。

内容:

- ・各地の取り組みの紹介
- ・「ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐつどい」(12月開催予定)について
- ・2016年以降の取り組み、進め方について
など

【ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐネットワークとは】

日本被団協とノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会は、2013年12月に開催した「ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐつどい」を機に、被爆者と受け継ぎ手が協力して、被爆者一人ひとりの声に耳を傾け、語り合い、記録に残す取り組みを呼びかけました。この呼びかけにこたえた個人、グループ、団体のネットワークです。『被爆者からのメッセージ』の制作や「被爆の証言を聞くつどい」、「ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐつどい」などを企画してきました。取り組みは継承ブログなどのご案内しています。どなたでも参加いただけます

3. 広島湾海上フィールドワーク「海から見えるヒロシマ」Part I へのお誘い

5月16日、広島でのフィールドワーク「原爆と向き合った3人の文学者をたどる旅～栗原貞子・原民喜・峠三吉～」を45人もの参加で成功させた竹内良男さん(東京・正会員)からのご案内です。

遠い戦地へ出征していった多くの兵士が出発した港としての広島湾・宇品。帰って来た兵士の検疫所があった似島はまた、原爆のときに1万人ともいわれる被爆者が運ばれ、70年経った今でも「死者たちが眠っている島」と言われます。

その似島へ救援に駆けつけた兵士の中には、対岸・江田島の幸之裏で水上特攻の訓練に取り組んでいた多くの少年兵もいました。

「歴史の現場を自分の足で歩きながら、いまにつながる案内人の話を聴き、自分の目で見ることを通して、戦争と平和を考えよう」というこの企画に、あなたも参加してみませんか。

- ◆ 日 時：2015年8月7日（金）9：30～16：30
- ◆ コース：宇品～似島～江田島（幸之裏）～金輪島～宇品
- ◆ 参加費：5,500円／◆ 募集人員：40人／◆ 申込締め切り：7月4日（土）
- ◆ 申込先・詳細問合せ先：竹内良男さん 090-2166-8611
メールアドレス：qq2g2vdd@vanilla.ocn.ne.jp

4. 出版案内＝朗読構成『伝えたい あの日のことを』（千葉）

千葉県原爆被爆者友愛会は、このほど朗読構成の小冊子『伝えたい あの日のことを』を発行しました。被爆50年に開催した「あの日を語りつぐ平和のつどい」のために県内被爆者の体験をもとに作成・発表。以来、市川被爆者の会が毎年朗読しつづけてきましたが、被爆70年を機に、より多くの人継承できるよう再編纂したものです。

被爆者の高齢化がすすみ、証言を自ら語り伝えるのが困難になりつつあるなかで、被爆者も、ヒロシマ・ナガサキを知らない人も、ともに語り継ぐために大いに活かしていただければと願っています。1部200円（送料実費）。

申し込みは、千葉県被爆者友愛会まで。TEL/FAX 043-253-7768

5. 日本被団協「被爆70年 核兵器のない世界のため被爆者と市民のつどい」のご案内

- ◆ 日 時：2015年8月5日（水）午後1時30分～4時30分
- ◆ 場 所：広島・文化交流会館（旧厚生年金会館）銀河 広島市中区加古町3-3
- ◆ 連絡先：日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協） TEL03-3438-1897

今年は被爆70年。広島、長崎の原爆被爆者の平均年齢は80歳を超えました。「生きているうちに核兵器廃絶を」という願いは切実です。この願いで被爆者はこの70年、国内と世界の人びとに懸命に訴えてきました。そしていま、この願いを若い人々に受け継いでもらいたいという思いも必死です。被爆者のたたかひの歴史と思いを、市民のみなさんと語り合うため、表記の「つどい」を開きます。ぜひご参加ください。

【プログラム】

- ◆ オープニング 平和の願いを世界に 歌とトーク
- ◆ 原爆被害者の証言 70年を生き抜いて 広島の被爆者、長崎の被爆者
- ◆ 報告と問題提起 『被爆70年の時を刻んで 被爆者の死と生のたたかひ』
日本被団協事務局長 田中熙巳
- ◆ 外国代表の連帯の挨拶・メッセージ

- NPT再検討会議で活躍した人びとの代表、核実験で今も苦しんでいる人びとの代表
- ◆被爆の実相普及へ 新しい担い手たちの決意
 高校生の代表、青年たちの代表、被爆体験を聞き書きしている人びと、生協の仲間たち、市民たち
 - ◆会場からの発言
 - ◆文化行事 被爆者と子どもたちのコーラス
 - ◆集会宣言

6. 《ご案内》被爆者の声を受け継ぐ映画祭2015

- ◆ とき：2015年7月18日（土）～19日（日）
- ◆ ところ：武蔵大学江古田キャンパス一号館地下1002シアター教室
- ◆ 主催：被爆者の声をうけつぐ映画祭実行委員会
 武蔵大学社会学部メディア社会学科永田浩三ゼミ
- ◆ 後援：日本原水爆被害者団体協議会 / ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会

1日目 7月18日（土）

プログラム① 10:00～12:15 原爆は被爆者に何をもたらしたか
 劇映画「ヒロシマの証人」（110分）監督 斎村和彦
 ビデオメッセージ 山口逸郎プロデューサー

プログラム② 14:00～17:15 映像は原爆被爆をどのように記録したか
 ドキュメンタリー「ヒロシマが消えた日～人類最大のあやまち・原爆～」(77分)
 ドキュメンタリー「引き裂かれた長崎～人類最大のあやまち・原爆～」(75分)
 トーク 石子順（映画評論家）

プログラム③ 18:30～21:00 被爆国に原発はどのようにしてもたらされたか
 ドキュメンタリー「ヒロシマ 爆心地の原子力平和利用博覧会」（74分）NHK 広島
 トーク：宮本康宏プロデューサー&永田浩三武蔵大学教授

2日目 7月19日（日）

プログラム④ 10:00～12:30 原発・エネルギー政策の嘘と真実とは
 ドキュメンタリー「日本と原発」（135分）監督 河合弘之

プログラム⑤ 14:00～16:30 原発事故は人々に何をもたらしたか
 ドキュメンタリー「飯館村 わたしの記録」（68分）監督 長谷川健一
 ドキュメンタリー「チェルノブイリ 28年目の子どもたち」（43分）ディレクター
 白石草
 トーク 白石草ディレクター

プログラム⑥ 18:00～20:45 被爆者の声をどのように継承するのか
 シンポジウム ～被爆者の声をどのように継承するのか～
 証言映像「原爆は、人間として死ぬことも生きることもゆるさなかった」（18分）

コーディネーター 永田浩三武蔵大学教授
斉藤とも子(女優) 有原誠治(映画監督) ほか

エンディング 歌唱 中島清香 (声楽家)

*上映作品の詳細は下記をご参照ください。

<https://drive.google.com/file/d/0B1iKKhGBFQBadU9SMk9YdlRtbmc/view?pli=1>

鑑賞券

(鑑賞券は各プログラムごとの料金です。入替制、開場は各回 30 分前です。)
(なお、プログラム③のみは入場無料です。)

大人 1000円 (当日1200円)

学生 500円 (当日 700円) *中学生以下は無料です。

フリーパス券 4000円

問い合わせ先

電話：03-5466-2311 (共同映画)

090-1793-6627 (金子)

メール eigasai★gmail.com (★を@に変更してメールを送ってください)

会 場：武蔵大学江古田キャンパス 一号館地下 1002 シアター教室

(西武池袋線 江古田駅から徒歩6分、地下鉄大江戸線 新江古田駅から徒歩7分、
有楽町線 新桜台駅から徒歩5分、有楽町線・西武池袋線 桜台駅から徒歩9分)

7. 各都道府県被団協の取り組み

被爆70年の各都道府県被団協の行事を紹介します。(「被団協」新聞第438号掲載)

[北海道]

原爆展 7月9～10日道庁ロビー

原爆死没者追悼会 8月6日札幌市ホテルノースシティ

[秋田]

原爆死没者慰霊祭 8月6日ビューホテル秋田

[岩手]

原爆写真・パネル展 8月6～9日

原爆死没者追悼集会 8月9日盛岡市プラザおでってほか

[宮城]

原爆死没者追悼平和祈念式典 7月20日仙台市戦災記念館

原爆と人間展 7月25～26日仙台市福祉プラザ

被爆70年のつどい—あの夏を忘れない 7月30日仙台市福祉プラザ

[群馬]

原爆死没者追悼式 8月6日前橋市嶺公園

[東京]

つたえようヒロシマ・ナガサキ東京原爆展 11月23～28日豊島区役所新庁舎

[埼玉]

原爆死没者慰霊式・被爆70年記念のつどい 7月26日埼玉会館小ホール
平和のための戦争展 8月1～3日浦和コルソ

[千葉]

原爆死没者慰霊式典 7月26日亥鼻公園
平和のための原爆展と原爆被爆の証言・ビデオ上映 7月27～31日県庁
ピースフェスティバル千葉2015 8月31日千葉市文化センター

[神奈川]

原爆と人間展 8月28～31日横浜新都市プラザ
原爆犠牲者慰霊祭 10月4日大船観音

[新潟]

原爆の日 8月6～9日新潟市役所
原爆死没者追悼式 10月

[静岡]

原爆と人間展 7月27～31日県庁、ほか8月中浜松市などで開催

[愛知]

原爆犠牲者を偲ぶつどい 8月3日名古屋市公会堂
原爆と人間展 8月15～16日金山駅コンコース

[三重]

原爆犠牲者慰霊三重のつどい 7月22日津アストプラザ
原爆写真展 8月中県内各自治体76カ所

[石川]

被爆70年映画会・友の会結成55周年記念式典 7月26日金沢市文教会館
原爆と人間パネル展 8月3～17日県庁

[京都]

原爆死没者慰霊式典 7月26日霊山観音教会
ミニパネル展 8月5～7日府庁
原爆慰霊写真・絵展 10月京都駅ビル

[大阪]

原爆被災写真展 7月31日～8月5日エルおおさかギャラリー、
原爆犠牲者慰霊式 8月6日府立労働会館

[岡山]

原爆死没者慰霊祭 6月30日岡山市

[鳥取]

原爆死没者追悼・平和祈念式典 8月6日鳥取市さざんか会館

[島根]

原爆写真パネル展 7月25～26日県民会館

[香川]

原爆死没者慰霊祭 8月6日高松市峰山公園

[長崎]

被爆70年記念集会 8月1日長崎原爆資料館ホール

[熊本]

原爆死没者追悼慰霊式典 7月28日県民交流会館

[鹿児島]

原爆と人間展

VI. 2015年度会費納入のお願い

会費の振込用紙を同封させていただきました。すでにお納めいただいているみなさまには振込用紙は入っておりません。ご送金と前後した場合はお許しください。

領収証が必要な方のご連絡下さい。領収証をお送りいたします。よろしく願いいたします。

(資料)

2015. 5. 23

ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会
第3回通常総会ご挨拶

会員の皆さんと共に歩む道

代表理事 岩佐 幹三

皆さん今日は、お忙しいところ本日の総会にご参集いただきありがとうございます。

今年は原爆被爆から70年、今国連で進められているNPT（核不拡散条約）再検討会議では、世界の大多数の非核兵器保有国を代表する方々が、核兵器は非人道的な兵器であり、その不使用、廃絶という道に大きく歩みを踏み出そうと主張して討議を重ねています。しかし核保有国は、ロシアのプーチン大統領がその切り札の一部を覗き見せたように中々本格的に土俵に乗ろうとはしていません。「アメリカの核の傘」に頼っている被爆国日本の政府そして安倍総理も基本的には同じ穴の貉です。

私は、この会議への日本被団協の代表団の一員として「一日も早い核兵器の廃絶」の実現を求めて渡米するはずでしたが、1か月ほど前に体調を崩して残念無念参加できなくなりました。しかし日本にいても「戦争するな、核兵器なくせ」の主張は貫けるし、私の属している日本被団協、そして「継承する会」は、まさにその主張の源泉ではないかとさらなる闘志を燃やすことになりました。そしてこれまで以上に国の政策転換を求めて、国が核兵器廃絶運動の先頭に立つことを追求する決意を固めました。

そのためには日本被団協はもちろんのこと、「継承する会」の継承活動にさらに深くかかわっていくことを決意しました。

皆さんもご承知のように、ゼロから出発して基礎づくりを始めたこの会は、皆さんの支援のおかげで今日までの2年余りの間に、まず会の「基本構想」を練り上げました。その構想に基づいて会の機構・組織の基本となる「継承センター」の構想について時間をかけた議論の結果、立案しました。それをどのようにして実現するか、まさにこれからの課題です。

その間にも日本被団協関係の各種資料、文献や物故役員の遺品文献などの収集・整理、また被爆証言の語り聞き取りのネットワークづくり、ウェブサイトの構築、NPT再検討会議へ向けた「被爆者からのメッセージ」、被爆証言のDVD化などの実績も積み上げてきました。

こうした活動の情報についてはその都度事務局から文書などで届けられていると思います。しかしそうした文書を通じての情報だけでは会の活動の実態を目で確認することができないために何をしているのか不安に感じておられるかもしれません。NPO法人としての活動を活性化していくために大切なことは、会員の皆さんとの間に円滑なコンタクト・協力関係をつくっていくことだと思います。皆さんがお持ちのノウハウや技術力また得意とされていることなどを会の活動に生かしていただける場を作っていきたいと思えます。それには当然財政的な問題などもかかわってきますし、どうしたら良いか実は悩んでいました。

先日NPO法人の仕事で幅広い活躍をされている方を訪ねる機会をつくりました。その方から積極的に前へ出る企画を進めることが大切だという大変貴重なアドバイスを受けることができました。なるべく早い時期に役員・事務局の方々と相談して、会員の皆さんが進んで参加・協力いただけるような企画を考案して、会の活動を皆さんとともに飛躍的に前進させるようになればいいなと思っています。「核兵器のない未来の世界」を夢見て前に進んで行きましょう。

どうかよろしくをお願いします。